



Mental Wellness !

〔学生総合相談通信 No.53〕

発行 : 平成28年1月25日

拓殖大学学生総合支援室

定期試験(後期)が始まりました。日頃の学習の成果が出し切れるよう頑張ってください。その後、春季休暇を迎えます。4年生には、大学生活最後の休暇となります。やり残しのないように、心と体のメンテナンスも忘れずに!皆さんにとって、有意義な長期休暇となりますように願っています。

Topic 突然、倒れたみたいだけど…、これってなに?

インターネットで、『知ることからはじめよう みんなのメンタルヘルス総合サイト』〔厚生労働省〕を検索してください。「こころの病気を知る→病名から知る」に進むと、突然倒れてしまい、本人はそのときの意識がないといった「てんかん」について、詳細な説明がありますのでご紹介します。

【以下、同サイトより引用・抜粋】

てんかん (epilepsy)

てんかんは、突然意識を失って反応がなくなるなどの「てんかん発作」をくりかえし起こす病気ですが、その原因や症状は人により様々で、乳幼児から高齢者までどの年齢層でも発病する可能性があり、患者数も1000人に5人~8人(日本全体で60万~100万人)と、誰もがかかる可能性のあるありふれた病気のひとつです。「てんかん発作」は、脳の一部の神経細胞が突然一時的に異常な電気活動(電気発射)を起こすことにより生じますが、脳のどの範囲で電気発射が起こるかにより様々な「発作症状」を示します。しかし症状は基本的に一過性で、てんかん発作終了後は元通りの状態に回復することが特徴です。原因は様々で、脳腫瘍や頭部外傷後遺症などの明らかな原因がある場合は「症候性てんかん」、原因不明の場合は「特発性てんかん」と呼ばれます。治療は適切な抗てんかん薬を服用することで、大部分の患者さんでは発作は抑制され通常の社会生活を支障なくおくれます。一方、抗てんかん薬では発作を抑えることができず、「難治性てんかん」として複数の抗てんかん薬の調整や外科治療などの専門的なてんかん治療を必要とする場合もあります。(中略)

発作で意識が消失することは、患者さんにとって社会生活上最も大きな障害となる症状で、事故にあう危険はもちろん、就労や就学、あるいは自動車運転などに際し大きなハンディキャップとなります。従っててんかんの治療は、発作をいかに消失させるか、あるいは意識消失を伴う発作の回数をいかに減らせるかが主要な目標となります。具体的な治療方法としては、抗てんかん薬の調整が主ですが、自己判断で薬を中断しないことが、発作を防ぐうえで重要です。また、中には先に述べたとおり外科治療で完治を期待できる場合もあり、早期に適切な診断を行うことが大切なことです。

大学生活に対する不安や悩みなどがありましたら是非一度、総合支援窓口である学生総合支援室へ来室して下さい。随時、専門職である学生主事が相談に応じます。

八王子国際キャンパス 管理研究棟 1階
文京キャンパス C館 2階
※月~金 9:00~17:00

八王子学生総合支援室 [学生主事3名]
学生総合支援室 [学生主事5名]
土 9:00~15:00

各種相談日のご案内

- 心の健康相談日**—専門医が来校し、心の健康に係わる不安や悩み等への医学的対処法を直接アドバイスしています。
- 法律相談日**—本学教員による、法律に係わる諸問題についての相談機会を設けています。
- 女子学生のための相談日**—本学女性教員による、女子学生のための相談機会を設けています。

〔予約制〕 相談希望者は、何れかのキャンパス「学生総合支援室」で事前に予約して下さい。

※次年度実施日時につきましては、次回発行の際に「4月予定」として掲載します。

次回発行予定 平成28年3月28日(月)